

9月は「同和問題啓発強調月間」です

同和問題をはじめとする人権問題を解決するためには、人権の意義や人権尊重の重要性について正しい認識を持つことが必要です。この機会に、皆さんも身近なことから人権について考えてみませんか。

▼「関連イベント」
街頭啓発 運動会などで、各学区人権教育推進協議会による街頭啓発が行なわれます。

▼人権のまちづくり講演会2019 多文化共生をテーマとした講演などを開催します。

日時 9月28日(土) 午後1時30分～同3時30分
場所 南地区公民館(甘呂町) ※託児あり(3か月児～小学生、要予約、9月20日(金)まで)
申込・問い合わせ先 困人権政策課 ☎30・6115番 FAX24・8577番

9月10日(火)～同16日(月)祝 自殺予防週間

市では、毎年約20人が自ら命を絶っています。

あなたの大切な家族や恋人、友達など、身近な人をつも気に掛けてみましょう。「どうしたの?」「何かあった?」と声を掛けることで、孤独を防ぎ、つらい気持ちをほぐすきっかけになります。人は誰かとつながっていることで安心感が持てます。あなたの一声で救われる命があります。

▼彦根保健所 ☎21・00803番

令和元年上半期(1月1日から6月30日まで) 火災・救助・救急事故の発生状況

消防本部では、彦根市・犬上郡で令和元年上半期に発生した火災・救助・救急事故の状況を統計にまとめ、公表しました。

表1 火災	表2 救助	表3 救急
火災件数 22	出場件数 25	出場件数 2,909
建物火災 14	火災 0	火災 1
車両火災 1	交通事故 17	水難 2
その他の火災 7	水難事故 4	交通事故 252
	自然災害 0	労働災害 28
主な火災原因	機械事故 1	運動競技 12
たばこ 3	ガス酸欠事故 1	一般負傷 415
電気関係 3	建物事故 0	加害 8
こんろ 3	その他の事故 2	自損行為 34
放火・放火の疑い 2	活動件数 12	急病 2,028
たき火 2	救助人員 17	その他 129
死者 0	※表中の数値は(件)、死者・負傷者・搬送者は(人)	搬送件数 2,625
負傷者 1		搬送人員 2,645

救急・救助概要(表2・3)
救助出場件数は25件で、うち「交通事故」が17件となり、全救助出場件数の68%を占めています。

救急出場件数は2,909件で、前年同期と比べ31件減少しています。これは、1日平均約16件の割合で救急車が出場したことになります。救急車により搬送された人は2,645人で、前年同期に比べ47人減少しています。

9月は世界アルツハイマー月間 認知症啓発イベント

9月は全国で、世界アルツハイマー月間として、認知症の啓発が集中的に取り組まれます。市では、認知症啓発イベントと彦根城オレンジライトアップを行います。

【認知症啓発イベント】
日時 9月8日(日) 10:00～14:35
場所 ビバシティ彦根(竹ヶ鼻町)正面玄関、センタープラザ
内容 街頭啓発活動、認知症啓発イベント、マスコット・ロボ隊長を作ろう
問い合わせ先 彦根市認知症HOTサポートセンター ☎30-9601、FAX26-2500(平日9:00～17:00)

彦根城オレンジライトアップ



9月21日(土)の夜は、彦根城がオレンジ色にライトアップされます(オレンジ色は認知症啓発のシンボルカラーです)

問い合わせ先 困医療福祉推進課 ☎24-0828、FAX24-5870

▼地域生活支援センターまな ☎21・2192番
▼滋賀県自殺対策推進センター(自殺予防電話相談) ☎077・5666・4326番
▼このころの電話 ☎077・5677・5560番
▼滋賀いのちの電話 ☎077・5553・7387番(金～日曜日の午前10時～午後10時)
▼自殺予防通問中、市立図書館で、自殺やうつ病などに関する図書を集めた特設コーナーを設置しています。

問い合わせ先 困健康推進課 ☎24・0816番、FAX24・5870番

9月9日は「救急の日」 いざという時、あなたは正しい応急手当ができますか?

救急医療と救急業務への正しい理解と認識を深めるために、毎年9月9日を「救急の日」と定めています。急病や交通事故などの救急事故が発生したとき、救急隊が現場に到着するまでの間、その現場に居合わせた人が適切な応急手当を速やかに実施することで、傷病者が救命される可能性が高くなります。応急手当に関する正しい知識と技術を身につけ、尊い命を救いましょう。

消防本部では、年間を通じた応急手当を身につけていただくため、救命講習会などを実施しています。応急手当の方法や救命講習会などは、彦根市ホームページをご覧ください。

問い合わせ先 消防本部 警防課 ☎22・0337番、FAX22・9427番



第4回 ブラジルへようこそ!

「ブラジル」という名前の由来は何ですか?

この質問に答えるために、ブラジルの始まりについて少しお話しします。

15世紀、当時は大変高価だった香辛料(トウガラシ、サフラン、シナモンなど)を手に入れるために、ヨーロッパ人はインドへ向かう貿易ルートを作ることが必要でした。そこで、ポルトガル人が大航海に挑みました。インドに着くためには、アフリカ大陸を迂回することが必要でしたが、航海士のペドロ・アルヴァレス・カブラルは航路を外れて、西に流され、当時まだあまり知られていなかったアメリカ大陸に漂着し、ブラジルを発見したといわれています。

この新しい土地には、先住民がいました。

た。彼らは服を着る代わりに自分の体に色を塗り、羽や種を飾りとして付けました。また、乾燥した藁で作られた家に住み、コーンやキャッサバを植え、果物を摘み、釣ったものや狩ったものを食べて暮らしていました。

ポルトガル人は先住民と接触し、土地の富(資源)を探求し始めました。その一つが「ブラジルボク」という木でした。その木の中身はすごく濃い赤色で、まるで燻火(赤く熱した炭火のこと、ポルトガル語で「ブラザ」という)のようだったので、「ブラジルボク」と呼ばれるようになりました。ポルトガル人はこの木で家具を作ったり、赤い樹液で布地を染めたりしました。そして、この木が取れる国のことをいつしか「ブラジル」と呼ぶようになりました。

つまり、ブラジルボクの色の美しさにちなんで、国の名前が付いたということです。自然豊かなブラジルならではだと思いませんか。

【彦根市国際交流員 オカモト・ジュリア・ユリ】



量水器取替業務従事者証

受託会社 ○○○○
氏名 ○○○○
有効期限 ○年○月○日

上記の者は、彦根市上下水道・有効期限満了量水器取替業務の受託者(㈱エコーサービス)が選任した従事者であることを証明します。

○年 ○月 ○日
彦根市上下水道部 印

顔写真

※メーターボックス上の駐車などは作業の支障になります。円滑に交換作業を行うため、ご協力をお願いします。

問い合わせ先 彦根市上下水道料金お客様サービスセンター ☎27・2802番、FAX27・2803番